

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果と 学力向上の充実に向けて

清水町教育委員会

～全体的な傾向～

平成30年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果、教科に関する調査の平均正答率は、小学校では国語A、算数A、算数B、理科で全国平均を上回りましたが、国語Bで全国平均を若干下回りました。中学校では全教科において全国平均を上回り、特に国語Bと理科においては、全国平均を大幅に上回りました。

学習状況調査では、小学校においては、規範意識、生活習慣や学習習慣が定着し、算数・理科への関心についても高い傾向が見られますが、自尊感情が低下している状況です。また、中学校においては、自尊感情や地域・社会への関心が定着しています。一方、昨年度と比較して学習習慣が低下している傾向がうかがえます。

“しみず「教育の四季」”を実践指標として、学校、家庭、地域が織りこみで心をかよわせ感性豊かな教育に取り組んでいますが、調査結果で明らかになった課題を踏まえ、今後も各学校、家庭、地域において、子どもたちの学力向上のための効果的な取組を意欲的に充実していくことが大切です。

学力 とは

基礎的な知識や技能を習得して、課題を解決するための思考力や判断力、表現力などの能力とともに、学ぶ意欲なども含めたものです。

今回の調査は、こうした学力のうち、教科に関する調査での設問で、主として「知識」に関する問題(A)と、主として「活用」に関する問題(B)について調査したものです。

また、教科に関する調査のほかに、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などを質問紙調査で聞きました。

主として「知識」に関する問題・・・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

主として「活用」に関する問題・・・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

平成30年度 全国学力・学習状況調査

【ねらい】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査方法】

- 対象学年の全児童生徒を対象に調査を行う。
- 清水町は全小・中学校4校が実施した。

【実施日】 平成30年4月17日（火）

【学年・教科など】

- 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
- 小学校6年生・中学校3年生の全児童生徒



小学校6学年 調査結果概要

教科に関する調査の結果

平均正答率は、国語A、算数A、算数B、理科においては全国平均を上回りました。国語Bは全国平均を下回りました。

◆小学校6学年調査問題の趣旨・内容

- 国語A—登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることや、言語についての知識・理解・技能など基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
- 国語B—目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることや、内容の中心を明確にして詳しく書くことなどから、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題
- 算数A—除法の性質を用いて、小数の計算の仕組みを考える。空間の中にあるものの位置を正しく書くなどから、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
- 算数B—示された情報を解釈し、条件にあう時間を求めることや、横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書くなど基礎的・基本的な知識・技能を活用できるかどうかをみる問題
- 理 科—堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している。ろ過の適切な操作方法を身に付けているなど基礎的・基本的な知識・技能を活用できるかどうかをみる問題

○町内小学校6学年の学力の傾向

国語A、算数A、算数B、理科において、全国を上回る平均正答率であり、多くの児童が学習内容を理解し、全体的に基礎・基本の定着や活用することも身に付いていると言えますが、国語Bは全国平均を下回っており課題も見られます。

○課題と対応

国語Bについて「話すこと・聞くこと」の学習指導要領の領域やそれぞれの能力、問題形式においては、全国平均を上回っていますが、いずれも記述式の平均正答率が、全国平均をかなり下回っており、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることについて課題があると言えます。

今後も、学校・家庭・地域が連携して、生きる力をもった大人に育てていくため、家庭で保護者とともに読書をしたり、読んだ内容について、自分の考えを整理して伝え、そのことに対する質問を考えたり、聞き合ったりするなど、日常から実践していくことが大切です。

中学校3学年 調査結果概要

教科に関する調査の結果

平均正答率は、国語A・国語B、数学A・数学B、理科の全ての教科において、全国平均を上回りました。

◆中学校3学年調査問題の趣旨・内容

- 国語A—書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成したり、文脈に即して漢字を正しく書くなどから基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
- 国語B—文章の構成や展開について自分の考えをもつ。相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書くなどから、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題
- 数学A—絶対値の意味を理解している。数量の大小関係を不等式に表すことができるなどの設問から、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
- 数学B—証明されたことから、新たにわかることを選ぶ。問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるなどから、基礎的・基本的な知識・技能を活用することすることができるかどうかをみる問題
- 理 科—神経系の働きについての知識を身に付けている。ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘できるなどから、基礎的・基本的な知識・技能を活用することすることができるかどうかをみる問題

○町内中学3年生の学力の傾向

国語A、国語B、数学A、数学B、理科の全ての教科において、全国を上回る平均正答率であり、基礎的・基本的な知識・技能に加えて、基礎・基本を活用することについても、ほとんどの生徒が一定程度身に付いていると言えます。

○課題と対応

数学Aの「数量や図形などについての知識・理解」に関する領域について、絶対値の意味、ひし形の線対称であり、点対称な図形であることについての理解について課題が見られました。

また、家庭・学校・地域が連携して、生きる力をもった大人に育てていくため、毎日必ず家庭学習に取り組む習慣を付けるための時間を、家族で保障してあげることなど、家族みんなで協力し支援することが大切です。

◎小学校

国語

◇話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる

・全国の平均正答率を大きく下回った学級において自分たちの言葉の使い方を見直すために立場を決めて話し合う場面を設定した問題については、計画的に話し合うためには、司会者、提案者、参加者それぞれの役割を捉え、話し合いの目的に応じた進行や、互いの発言の意図を理解することの大切さに気付くことが重要です。
話し合い活動の場を多く経験することに加えて、話し合い活動を振り返る学習も重要です。

◇目的に応じて、複数の本や文章などを選んで効果的に読む

・高学年になると、本を中心とした資料から、新聞や雑誌、インターネットなど、情報収集の範囲やその活用方法が広がっていきます。そのため、目的に応じて適切な本や資料を選んだり、効果的な読み方をしたりすることが重要です。

★各家庭での実践

・保護者も家庭での読書「家読（うちどく）」を実践して、家族全体で読書に親しみ、読書習慣の定着を図りましょう。

理科

◇堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解しているかどうか

・科学的な言葉や概念を理解することができるようにするためには、言葉の意味を的確に捉えることができるように実際の自然の事物・現象に適用して説明する場面を設定することが大切です。

指導に当たっては、児童のもつ問題意識の下で野外観察やモデル実験を行い、得られた結果から、自然の事物・現象と科学的な言葉を一致させることが大切です。

例えば、観察、実験などで得られた結果を考察する場面などで、流れる水の土地を削ったり、石や土などを運んだり積もらせたりする働きについて、「侵食」、「運搬」、「堆積」といった科学的な言葉を使って説明する学習活動を繰り返すことが考えられます。

さらに、学習後に実際の川や写真の川の様子について、科学的な言葉を使って説明する学習活動も考えられます。

◇電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できるかどうか

・実験結果の見通しを伴った解決の方向性を構想できるようにするためには、自らの予想や仮説を基に実験計画を立案し、実験を行う前に、予想が確かめられた場合に得られる実験結果を見通すことが大切です。

指導に当たっては、回路の中をどのように電流が流れているかについて、根拠のある予想や仮説を設定し、図などで表現しそれを基に話し合う学習活動が考えられます。

★チェックポイント

・「理科の勉強が好きだ」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っています。各学校で、理科の授業において、児童の好奇心や意欲が喚起されるよう工夫した結果、「物質」「生命」「地球」で、全国を上回る結果になったと考えられます。

◎中学校

国語

◇語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかどうか

・語感を磨き語彙を豊かにするためには、語句の意味を辞書や資料集などを用いて確認するだけでなく、話や文章の中で実際に使用するように指導することが大切です。場面に即した語句を選択し、活用することができるようになるためには、例えば、以下のような学習活動が考えられます。

- ①気になった語句をノートに書き留め、その語句を使った短文を作ったり、話や文章の中で使ったりする。
- ②文学的な文章の学習で、登場人物の人物像などを四字熟語や慣用句を用いて表す。

★チェックポイント

・国語を学習する際には、言語に対する知的な認識を深めるだけでなく、言語に対する感覚を豊かなものにしていくことが大切です。そのためには、継続的な読書の時間などが必要であり、国語科の学習を他教科等の学習や学校教育全体に関連させていくように工夫することも大切です。

数学

◇絶対値の意味を理解しているかどうか

・「正の数と負の数の範囲で、絶対値の意味を理解できるようにする」
数直線上における原点から距離が絶対値であることを理解できるように指導することが大切です。例えば、絶対値が6である2つの数を数直線上に表すことを通して、絶対値が6である数として、+6と-6の2つが存在することを確認する場面を設定することが考えられます。

◇ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形でもあることを理解しているか

・「線対称や点対称の観点から図形を考察できるようにする」
線対称や点対称の学習では、図形の対象性に着目して考察することを通して図形の性質を捉えることができるように指導することが大切です。
例えば、ひし形の紙を用いて、ひし形は対角線で折るとぴったりと重なること、対角線の交点を中心に 180° 回転させてもぴったりと重なることを確かめる活動を通して、ひし形は線対称な図形であり、点対称な図形でもあることを確認する場面を設定することが考えられます。

◇与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるかどうか

・実生活の場面で、事象を目的に応じて数値化して判断する場面を設定し、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるように指導することが大切です。

★各家庭での実践

・日常生活の中で、ある問題の解決について話題にし、様々な情報からどんな情報が有効なのか、お互いの考えを話し合うことなどを実践しましょう。

質問紙調査の結果

小学生は生活習慣、学習習慣、規範意識など全国平均を上回っていますが、自尊心については、全国平均を下回り、改善に取り組む必要があります。
中学生は、自尊心が全国平均を大きく上回り、自分のよいところを的確に把握し、将来の夢や目標を明確に持っている傾向があります。

◇質問紙調査の趣旨・内容

学力の状況のみならず、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問紙調査を実施し、学力とその相関関係等を分析します。学力との相関については、①学習に対する関心・意欲・態度②自尊心・規範意識③学習の基盤となる生活・学習習慣④教科学力について調査が行われました。

町内の児童生徒の学習習慣や生活習慣等の傾向

小学校6学年児童では、全国基準と比べて、家で学校の授業の予習・復習をしている、学校のきまりを守るなどについて意欲の高い傾向にありました。

中学校3学年生徒では、全国基準と比べて、「課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった」について高い傾向にありました。家での学校の宿題や、朝食を毎日食べるについては、全国基準に比べて低い傾向にあり、学校のみならず、家庭との連携による改善が必要です。

改善の方向性

○知識の理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の学習プロセスを重視し、確かな学力を確立するための学習活動を充実しましょう。

～知識・技能の確実な定着を図る指導の工夫改善に努めましょう～

- ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、体験的な理解を重視した学習活動や、授業の最後に「まとめ」「振り返り」をしっかりとる学習指導の工夫改善を図る。
- ・一人一人の習熟度等に応じたきめ細かな指導を一層充実する。

～思考力、判断力、表現力等を高める指導を充実し、実際に課題を採求する活動の実践に努めましょう～

- ・観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実し、教科において記録、要約、説明などの学習に取り組むことで、学びに向かう力や人間性を養う。

○「教えて考えさせる授業」の展開など学習意欲の向上につながる指導の工夫改善に努めましょう。

- ・児童生徒の学習意欲を高める「分かる授業」「自ら考える授業」の実践研究を推進し、児童生徒の自立性を促すことができるよう教師の授業力を高める。
- ・地域の人材や加配教員の活用を含め、多様な指導者による少人数指導、チーム・ティーチングや習熟度に応じた、多様な指導の充実を図る。

○家庭・学校・地域が相互に連携し、学習習慣や基本的な生活習慣の育成を図るための活動を充実しましょう。

- ・家庭学習の前に1～2分でする簡単なプリントを繰り返し行ったり、保護者が学校での授業内容を尋ねるなど、学習への意欲と集中力を育てる工夫をする。
- ・勉強時間を決めて表示したり、テレビを消す時間を設けるなど、子どもが時間を意識した生活習慣の改善を図り、生活リズムの中に家庭学習時間を確保する。

○読書に対する意欲を高め、読書活動を活発にする取組の一層の充実を図りましょう。

- ・全校一斉の読書活動を推進し、学校図書館の活用を図る。
- ・毎月19日の「しみず読書の日」を意識して、読書の習慣化を図る。

清水町教育研究所との連携

清水町教育研究所では、こうした調査の結果を受けて、十勝教育研究所と連携し、教育課程や授業の工夫改善、家庭学習の推進に取り組んでいきます。各学校においては、研究所の研究成果を参考にするとともに、各学校において常日頃より実践研究に取り組んでいただくなど、連携を図りながら、町内の児童生徒の確かな学力の育成に努めていきます。

